



長年にわたる教育への功績が認められ

◎瑞宝双光章受章

12月3日、長年にわたり学校教育に尽くされた功績が認められ、このたび松浦正樹さん=小松=が瑞宝双光章を受章されました。

松浦さんは昭和24年に愛媛大学教育学部研究科を卒業後、小学校助教諭として奉職。その後、教諭、教頭、校長を歴任。この間、ひたすら教育の道に邁進し、郷土の教育の発展に献身的に努め、児童一人ひとりに温かい愛情を注ぎながら、思いやりに満ちた教育を実践してきました。松浦さんの豊かな人間性と責任感の強さ、そして、卓越した教育手腕は名実ともに教育者の模範となり、学校教育の発展、教職員の育成指導の進展に多大な功績を果たしました。

この日は、大北秀南予地方局長が表彰状と勲章を贈呈。松浦さんは「幸せな教員生活が送れたのも周りの皆さんのおかげ」と、嬉しそうに笑みを浮かべていました。



年々高まる史跡への関心

◎鬼北・「おに」の講座、等妙寺ウォーキング



11月30日、『第4回鬼北・「おに」の講座』と「等妙寺ウォーキング」が行われました。

近年、等妙寺関係の調査で明らかとなってきた霊山としての奈良山や、そこを舞台に活動した僧侶や修験者たちの意識を感じてもらおうと、鬼北町教育委員会が開催したこのイベントには、町内外から約100人が参加しました。

参加者たちは職員と山寺保存会の案内で、行場の1つと想定される「金剛滝」や、徐々に発掘調査、史跡整備が進む「等妙寺旧境内」の自然や景色を楽しみながら、山岳信仰や中世等妙寺の壮大な世界にふれていました。

「食」は健康の要！笑顔の食の祭典

◎きほく食改味まつり



「きほく食改味まつり」は11月27日、鬼北町総合福祉センターひまわりで開催されました。

食生活改善推進協議会の近永、好藤、日吉の各支部の発表の場として3年に1度行われているこのまつり。テーブルには季節の地場産物や野菜を使った料理など、各支部が工夫を凝らした料理10品が並びました。



会員たちは「美味しいね」と会話を楽しみながら、「食」を通して会員同士の交流を深めていました。